



開物成務

令和5年 9月 4日(月)発行

校長 津田 千由美

2学期が始まりました

お盆過ぎから、日が暮れると秋の虫たちの鳴き声が聞こえてくるようになりました。しかし、日中の暑さは相変わらずです。

残暑厳しい中ですが、子どもたちが元気に登校を再開し、久しぶりに学校に活気が戻ってきました。

夏休み中、大きな事故や事件がなかったことや宿題・作品の提出状況から、ご家庭で丁寧にお子さんと向き合っていたいただいたことを感じます。心より感謝申し上げます。

～ 始業式の校長の話を紹介します～

以前、私が受け持っていたクラスの出来事をお話します。

6年生の担任をしていた2学期、「長縄集会」がありました。この長縄集会は、クラスみんなでハの字跳びをして、3分間で何回跳べるかを競う集会でした。6年生にとっては小学校生活最後の長縄集会です。ですから、子どもたちは「最高記録を出したい。3分間300回以上を目指そう」と、目標を立てました。そして、体育の時間はもちろんのこと、休み時間や朝の時間などを使って、練習が始まりました。

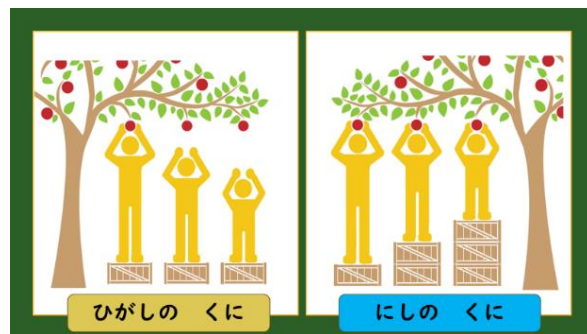
ところが、クラスの一人の子(Aさん)が、どんなに練習しても一向に跳べるようになりませんでした。Aさんは、縄跳びが大の苦手だったのです。そのうちAさんはやる気を失い、とうとう「僕はどうせ跳べないから、集会には出ない」と言い出しました。

困った子どもたちは、話し合いをしました。Aさんの気持ちを想像し、「Aさんは、跳ぶのではなく、潜り抜けたら数えること」「Aさんの番になったら、縄をゆっくりと回すこと」が決まりました。

本番当日、目標には届きませんでした。3分で289回跳ぶことができ、みんなも、もちろんAさんもとっても幸せな気持ちになりました。

「めでたし、めでたし」と言いたいところですが、ここで問題発生。ほかのクラスから、「ずるい！」という声が上がったのです。

みんなは跳んだ回数を数える、Aさんは跳ばずにくぐり抜けた回数を数える…確かに、これは「平等」ではありません。これは、「ずるい」ことなのでしょうか？



始業式が終わったあと、各クラスで、この絵を見ながら話し合いました。

ある学級ではこんな発言がありました。

「ぼくは、ひがしのくにもいいと思います。ぼくが一番背の高い人だったら、りんごをたくさんとって、取れない人たちに配ってあげられるからです」

また、別の学級ではこんな発言がありました。「にしのくには、背の高さによって、踏み台の高さが違う。りんごをとるといふ目的があるならば、高さは違う方がいい」

別の子どもから、こんな発言もありました。「人によって、できるようになる速さがちがう。だから、跳べない子も、時間をかけて練習すれば、いつかきっと跳べるようになると思う。今は、跳べないから、みんなと違っていいんだと思う。ずるくない」

相手を思いやるすてきな発言に溢れていました。

2学期は、運動会や遠足、林間学校などの大きな学校行事があり、1年間で最も学校生活が充実する学期です。子どもの心に寄り添いながら、子どもたちの主体性や自己有用感の向上をめざし、その子にあった支援を模索し続けていくことを、教職員全員で確認し合いました。

今学期も引き続き、学校教育へのご支援ご協力をお願いいたします。

お子様を送迎するための近隣店舗等への駐車は、お止めいただくよう、ご協力お願いします。

夏休み中の学校は？

「先生たちは授業がないのに何しているの？」

子どもから、よくこんな質問を受けます。

子どもたちがいない静かな夏休みの学校…いったいどんなことが行われているのでしょうか。

先生たちは、授業のないこの期間に多くの会議や研修を行います。今年の夏、開成小学校では「人權研修会」「ICT研修会」「OJT研修会」「不祥事防止研修会」「職員会議」「グループ会議」「学年会」などを行いました。他にも、郡や町、県の研修会に出張したり、遠足や校外学習の下見に行ったり、2学期以降の授業準備をしたりと、安全安心の学校づくりのために多くの準備をしました。

もちろん、先生たちは、エネルギーをためることも大事な仕事の一つですから、休みもしっかりとりました。

また、夏休み中には、いろいろな学校施設の修理も行われました。

今年は、給食室のエアコン設置や漏水のあった天井、渡り廊下等の修繕、電気・水道など様々な点検作業も行われました。

中でも、150周年記念事業で大規模改修している中庭は、10月下旬完成予定です。運動会にはお披露目ができると思いますので、楽しみにしててください。



避難訓練～水害～

9月1日、開成小学校では水害の訓練を行いました。河川の氾濫による水害が起きた際に、迅速に安全な場所に避難できるようにすることが目的です。

大雨により、酒匂川氾濫の恐れがあり、緊急避難指示が発令されたことを想定した訓練でした。町のハザードマップによると、開成小学校がある場所は、約0.5mの高さまで水につかってしまう可能性があるそうです。これは、だいたい1階の床の高さまで水につかってしまうことを意味します。校舎1、2階にいる児童は校舎3階以上に避難しました。

折しも、今年が関東大震災から100年目。水害や地震の際の避難場所について、ご家族でぜひ話題にしてください。「備えあれば患いなし」、自分の命、大切な人の命を守りましょう。



「短所」と言えば、その字のごとく「ダメなこと」「嫌なもの」と否定的に捉えられるのが常であります。しかし、最近「短所を愛する(めぐる)」という言葉に出会いました。「短所を愛する(めぐる)」ことは、自己有用感を育むことにもつながるというのです。

一学期、こんな場面に会いました。子どもたちが列になって歩いていきます。

Aさん 「Bさん、ちゃんと並んで！ いつもおしゃべりばかりなんだから。」(Bさんは別の友達との会話を夢中)

Bさん 「ごめん、ごめん。ぼくには、お母さんが、2人もいるんだよ。学校と家と…。」

Aさんの言葉は、それだけ切り取るとBさんに対する注意です。しかし、Bさんはそれをすんなりと受け止め、しかもダジャレで返しました。受け止め上手なBさんの言動もさることながら、Aさんの伝え方、関わり方が素敵でした。Bさんの良さでもある「話に夢中になる」ことは、「短所」にもなりがちです。

でも、Aさんは、Bさんのこの「短所」を「嫌なもの」「ダメなもの」とは思っていない。「仕方ないな。Bさんらしいな」「おしゃべりに夢中になるBさんも憎めないな」と肯定的に受け止めています。日常的なかわりの中で、そのことが十分にBさんにも伝わっているのでしょうか。

「ぼくには、学校にも家にもお母さんがいる」という嬉しそうな反応が、それを物語っています。

損得考えずに純粹に相手を受け入れられる子どもたちの姿から、よりよい人間関係づくりの基本に気づかされました。

短所も含めて丸ごと受け入れてもらえたBさんはとても幸せです。そんな学級づくりをめざします。

はとても幸せです。そんな学級づくりをめざします。

わたしのひとりごと…

